

# ライフの冒険

ぼうけん

さく・え きたむらしょう



ぼ う け ん  
ライフの冒険

さく・え きたむらしょう





『わたしはライフ、子<sup>こねこ</sup>猫のライフ。あれもこれもなんだろう？ワクワクがいっぱい！』



ある日<sup>ひ</sup>のこと、ライフはおそらのまぶしいおひさまに<sup>こえ</sup>声をかけました。

『こんにちはおひさま、あなたはどうしてぽかぽかなの？』



「おや、かわいい子猫<sup>こねこ</sup>さんだね、それはね、きみのようなかわいい子<sup>こ</sup>に

にっこりわらっていてほしいからだよ、ひとりぼっちだとさみしくなってしまうからね」



『そうなのね、ありがとうおひさま、でも今はおともだちもいるし  
パパやママだっているからひとりぼっちにはならないわ』



「いつかわかる時<sup>とき</sup>がくるよ、ちいさなおじょうさん」

おひさまはしんぱいそうにいました。



つきひはめぐり、ライフはうつくしいおねえさん<sup>ねこ</sup>猫になりました。



ある日<sup>ひ</sup>のこと、ライフは夜空<sup>よぞら</sup>にあるきれいなおつきさまに声<sup>こえ</sup>をかけました。

『こんばんはおつきさま、あなたは<sup>よぞら</sup>どうして夜空できらきらしているの？』



「あら、うつくしい<sup>ねこ</sup>猫さんだこと、それはあなたみたいなうつくしいかたが、

<sup>くら</sup>暗い<sup>よる</sup>夜でも<sup>い</sup>行きたいところに行く<sup>い</sup>ためにするためよ。

いいこともわるいことも、なにがおきるかなんてだれにもわからないもの。」



『そうなのかしら？まいにちたのしくのんびりだもの

きつとこのままたのしくすごせるとおもうわ』



「いつかわかる<sup>とき</sup>がくるわよ、うつくしいかた」

おつきさまはこまったようなかおをしていました。



さらにつきひはめぐり、ライフはおばあちゃん<sup>ねこ</sup>猫になりました。

よごれてしまい、とてもきれいとはいえません。

ある<sup>ふゆ</sup>冬の<sup>ひ</sup>さむい日のこと、つよいふぶきのなかで

ライフはひとりぼっちでよわってごえていました。



そんな中、男の子がひとり、ライフをやさしくだきしめました。

ライフは男の子にききました。



『どうして! どうして、こんなよごれたわたしをたすけるのですか？

わたしはもう長<sup>なが</sup>くはないのです。あなたが助<sup>たす</sup>けたとしても、わたしはそのうち

死<sup>し</sup>んでしまいます! 早<sup>はや</sup>くあなただけでもおうちにおかえりなさい!』



男の子はハートといい、わたしをみてやさしくにっこり笑った。

「だれかをたすけるのに、理由なんているかい？なぜかはぼくにもわからないけど、  
いっしょにいたいって思ったんだ。ぼくもひとりぼっちだからいっしょだね」



やさしく抱きしめる彼の<sup>だ</sup>手は、つめたくふるえていた。

そんな彼の<sup>かれ</sup>手を、ただひたすらにライフはぺろぺろとなめつづけていた。

どうしてからだはつめたいのに、こんなにもこころはあたたかいのだろう

ひさしぶりのやさしさに、ライフは<sup>なみだ</sup>涙がとまりません。



あなたのようなところがやさしいひとに<sup>あ</sup>会うため、うまれてきたのだろう。

きみがひとりぼっちにならないように、ぼくはずっとそばにいる。

そんなぼくたちをおひさまとおつきさまはやさしくてらし、しずかにみまもっている。